

岸辺 四郎（きしべ しろう）様（80歳） 要介護2 在宅で独居生活中。

7年前に脳内出血を発症し、左半身に麻痺の後遺症が残る。

最近、認知症の進行により、危険認知がなくなっていることに加え、膝折れもあることで自宅内にて転倒を繰り返している。

現在は、週3回のデイサービスと1日3回のヘルパーサービスを利用して生活している。

<岸辺さんのADL状況>

- 起き上がり：つかまれば自力で可能。起き上がり方がわからなくなることがある。
- 座位：バランスを崩すことがあるも、つかまれば安定して座位保持可能。
- 立位：立ち上がりの際、膝折れすることがあり、転倒に注意が必要。
- 移動：歩行器を使用し、歩行可能だが、付き添いがないと転倒する恐れがある。
- 更衣：一部手伝いは必要だが、概ね自身で可能。
- 認知度：意思疎通は可能であり、自身の行動は自身で判断することができる。
- 会話：失語症はないが、無口な方で、基本的には頷く、首を振る、程度で返答をされる。

<問題>

あなたは、ヘルパー事業所のサービス提供責任者です。新しく入社した登録ヘルパーの同行援助として岸部様の自宅を訪問すると、居室内で長座位にて座り込んでいる岸部様を発見しました。

話を伺うと、「立とうと思ったらバランスを崩した。多分、どこも打っていない」とのことです。

試験官を新人スタッフに見立て、以下の①②③の実演指導をしてください。

また、現在のコロナ禍の状況も踏まえた訪問時の注意点等も指導するようにしてください。

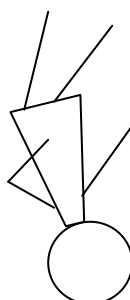
- ① 岸部様を長座位の状態から椅子に座ってもらってください。（実演指導）
- ② 電子血圧計を使い血圧測定を行ってください。（実演指導）
- ③ 転倒発見時の観察ポイントやご家族・他サービスへの引継ぎポイントを新人に説明してください。（口頭指導）

<注意事項>

- ◆実技試験の実施時間は12分。

<試験会場の状況>

物
品
置
き
場



椅
子

